

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	ここにわ
-----	------

取組の名称	若者カフェ及び関連事業
実施場所	コミュニティカフェ「メサグランデ」
対象地域	川崎市全域
対象地域の特色・課題	<p>若者問題については、川崎市域に限らず、全国的な課題である。バブル崩壊以後、新卒時に正規雇用就くことのできなかつた「就職氷河期世代」が出現し、その後も非正規雇用のまま不安定な生活を余儀なくされてきた。併せて、不況の長期化や、経済界の日本型雇用の再編によって嘱託、契約、派遣など非正規化が促進され、下の世代にも、貧困や格差などの生きづらさが引き継がれてきた。さらに、この世代は子育て世代となっており、貧困の連鎖が危惧される。</p> <p>また、雇用状況は、不況だけではなく、IT化や、効率化、実績主義なども同時に進行しており、そこから新たな問題も生み出されている。そんな中で、若者世代の問題は、経済的な課題だけでなく、社会的排除や孤独・孤立、コミュニケーション不全、ひきこもり、発達障害などの障害の課題、うつなどの精神的な病理などさまざまな複合的な課題を抱えているといえる。</p> <p>しかし、一方で、若者の課題の受け皿となる機関がないため、実態は把握されているとはいいがたい。ひきこもりについていえば、川崎市精神保健福祉センターによれば、市内のひきこもりの人の数は数千人に上るとのことである。また、昨年初めて35歳～50歳を対象として行われた自治体の「就職氷河期世代職員採用試験」では、川崎市の場合5人の採用枠に578人が応募、実に87倍という倍率になっている。</p> <p>川崎市の特徴として挙げられるのは、学生あるいは社会人として単身で暮らしている若者が多いということであり、他者とのかかわりが希薄になり、孤立する可能性が少なからずあるといえる。</p>

	<p>若者問題に対しては、広範な施策が必要であるが、市民としてできることとして、居場所の取り組みを行っていきたいと考えている。</p>		
取組の趣旨・目的	<p>「若者カフェ」は、生きづらさを抱える若者と考えているが、若者だけでなく、誰でも受け入れている。「若者カフェ」では、若者が食事をし、お茶を飲みながらゆっくりとくつろぎ、いろいろな世代、立場の人と気兼ねなく交流し、互いに認め合い、エンパワーメントし合える場をめざしている。</p> <p>また、若者に関する様々な課題について、若者自身も含めて多くの市民と考え合うために、講演会など学び合う機会を作る。</p>		
実施内容・実施スケジュール	<p>○若者カフェ 毎月第4土曜日午後1時から3時</p> <p>新型コロナに関わる緊急事態宣言のために4月、5月、1月、2月は休止した。</p> <p>全8回開催 延べ 91人</p> <p>ただし、6月については主に毎回参加していただいている人と今後の開催について話し合いのために開催。その際、開催時間を当初4時までの予定だったものを3時までと時間短縮して7月から開催することとなった。また、今後の休止に際しては、オンラインでの開催についての提案もあったが、常時参加している方の中では、PCを持たない、PCの操作に習熟していない、スマートフォンを持たない、旧型携帯電話の持たないなどの状況があり、オンライン開催は断念した。</p> <p>○若者カフェを休止中の対処</p> <p>若者カフェを休止した期間のうち、1～2月には、季節の絵葉書スタイルで各種のお知らせをカフェ利用者等に郵送するとともに、希望される方から電話やメールで各種相談を受け付けることとし、カフェとは異なる形での交流を図ることとした。</p> <p>具体的には、人間関係のトラブルについての相談に乗ったり、SNSの使用方法について助言をしたり、あるいは再就職希望者に対して、就労支援や各種相談機関に関する情報提供を行ったりした。</p> <p>結果的に、カフェ利用者以外の方からもメールを通じたアプローチなどがあり、新しい交流の形も生まれることとなった。</p> <p>※講演会については、今年度は開催を見送ることとした。</p>		
参加者の年代	10代から70代	定員 (1回あたり)	15人

<p>実施頻度</p>	<p>原則として 毎月1回</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>若者カフェ8回 ※この他、カフェ休止中の1 ～2月は電話・メールによる 相談受付等を実施</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>若者カフェでの食事の準備は、ここにわメンバー3人+応援スタッフで行っている。主催者と参加者が共の作る場とするため、調理や配食についても参加者に関わってもらうことが本旨であるが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のために、スタッフを限った。</p> <p>話し合いについては、ファシリテーターを依頼し、初めての人でもスムーズに参加できるように配慮している。</p>		
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>メサグランデを利用しているこども・若者関連の活動として、地域食堂「メサミール+」、学習支援「てらこみーる」、ひとり親の「がんばるままのおしゃべり交流」があり、ビーバーリンク@武蔵新城との呼称で連携し、協働広報や食材の提供を受けている</p>		
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>私たちの活動は、広報等でははっきりとはうたっていないが、参加する方は、孤独、うつ、ひきこもり、障がい、就労困難などのさまざまな困難や生きづらさを抱えた方、あるいはそうした人を理解したいと考えている人であるようだ。その課題の多様さに、力不足を感じざるを得ないし、支援というにはささやかな場であるが、他人同士が場と時間を共有するという体験によって、若者や家族、多世代の人たちがエンパワーメントされる場となっていると思っている。</p> <p>2020年度は、コロナ禍により、2度の休止を余儀なくされた。再開にあたっては、広報に躊躇するところがあり、なかなか新しい人の参加につながることができなかったが、常連の方たちは、新たな活動に踏み出すことを報告してくれるなど、カフェを持続することの意義を実感している。</p> <p>一方で、メールで若者カフェについて問い合わせをしてきた方と、そのまま自粛での休止になったため、1～2週間くらい間隔でメールでのやり取りを継続し、交流することとなり、カフェ開催とは違う形で、何らかのよりどころになれたようである。</p> <p>自粛による孤立や精神的な落ち込み、収入の減収や失業などコロナ関連での生活の困難を抱える人も増えてきており、感染防止策に取り組みながら、何とか場を存続させていくことを団体内で確認したところである。</p>		